

## 弱っている者に

2021年10月10日

詩篇 41篇 病床からの歌

序：昨年来のコロナ・ウイルス感染（未曾有、波状で拡大した全世界規模の災禍）  
手探りの対応、隔離、自粛、医療関係者の犠牲的奮闘、鎮静化、

人の永遠の課題 = 生・老・病・死

詩人はダビデ王：病に倒れ、床にしている  
三男アブサロムの謀反 ⇒ 家臣（裏切り・忠実）⇒ 都落ち・逃亡 ⇒ 帰還

- I. 弱っている者・病人に心を配る人たちへの感謝・祝福（幸いなことよ！）  
医師、看護師、家族、見舞い人  
イエス・キリストの模範  
聖徒の慈善（ペテロ：病人のいやし）（ドルカス：着る物を作って与えた）  
信仰者の愛のわざは、終わりの日に報われる マタイ 25・31～36
- II. 神への祈願  
見守り、生かし、病床で支え、起き上がらせてください  
地上で幸せな者とされる
- III. 自分の罪を認め、告白  
自分の内心に注目（あわれんでください、いやしてください、私は罪ある者）  
霊的罪
- IV. 窮状（病・弱さ+敵）
  - (1)敵は彼を意のままにしようと企てた（分かっても対抗できない弱さ、焦燥）
  - (2)敵の悪口  
面と向かってではない陰口、呪い（思いとことばによる殺人）＝本人の死  
子孫断絶
  - (3)敵の偽善的な見舞い（同情のふり、口先だけ、様子伺い）  
（自分への影響、立ち居振舞の考慮、他人への偽情報拡散）
  - (4)敵の共謀（漣のように拡がるうわさ、過大、歪曲、尾もしろおかしくさえ）  
（陥れるための悪い企み）
  - (5)悪意の取り沙汰（邪悪なものが取り憑いている、彼は再起不能だ）
  - (6)親友の裏切り（腹心の議官・知恵者アヒトフェルのまさかの離反）  
イスカリオテのユダのイエスへの裏切り
- V. しかし、主よ  
敵の包囲網は徐々に、確実にせばめられてきた  
四面楚歌、四方八方塞がり、決して人間に信頼を置けない、置いてはいけない  
上は開いている 主だけは信頼して裏切られることはない

懇願 (1)私をあわれんで、立ち上がらせてください) ⇒ 敵への報復

(2)主が私を喜んでおられることを明示してください

- 敵の神を無視した欲望、野心、謀略をことごとく打ち壊して  
主は彼らを喜ばれないことを知らしめてください
- 主が私を喜んでおられることを明らかにしてください

(3)私を強く支え、御顔の前に立たせてください

- ∴ 私は自分の罪深さを覚えつつも、主に誠実を尽くして仕えてきました  
あなたは私への契約のとおり、私を支えてください  
＝救い主がダビデの子孫として生まれる  
その王国は永遠に立つ

## VI. 頌栄

五巻に分かれている詩篇の第一巻(1～41)の最後  
後に続いていくつなぎ目  
アーメン、アーメン

## VII. 結び

(1)病は避けられない禍でもあり、恵みでもある

心を配ってくれる人たちへの感謝

自分の内側を吟味 ⇒ 認罪と告白 ⇒ 主への嘆願 ⇒ 罪の赦し・力

(2)病・弱さを通して、この世と人間の実態が見えてくる

非難さ、残酷さ、巧妙さ、偽善、裏切り (性悪説)

(3)しかし、神はちがう、信頼して失望させられることがない

唯一の避難所、要塞、安息

(4)試練の最中、祈りの直後に必ずしも結論は出ない

それには、続きがある

主をほめたたえて、主に委ね、期待しよう

(5)幸いなことよ ①悪者、罪人、嘲る者と歩調を合わせない人 (1篇)

②背きを赦され、罪をおおわれた人 (32篇)

③弱っている者に心を配る人 (41篇)

自分は受ける側にも、与える側にもいる

受けるときには、感謝と祝福を

与えるときには、成した慈善を忘れよ

実際、私たちの周囲には弱っている多くの人々がいる  
愛を求めている人、失望落胆している人、信仰の乏しい人、  
神を知らないため途方にくれている人、孤独な人

心を配る範囲は限られているかもしれない

虚栄のためでなく、できることはある

金銀がなくても、できる心配りは何か?

すぐに、身近なところから、幸いなことを始めよう